

地 域 再 生 計 画

- 1 地域再生計画の名称
越前おおの自然・城下町の交流基盤整備推進計画
- 2 地域再生計画の作成主体の名称
福井県、大野市
- 3 地域再生計画の区域
大野市の全域

4 地域再生計画の目標

【本市の特性】

福井県大野市は、県の東部に位置し石川県、岐阜県に接した中山間地域で、人口は約3万8千人、市全域の87%が山林で占められた盆地・山岳地帯であり、四季を通じて気温の変化が激しく県下有数の豪雪地帯である。

市街地は、亀山にそびえる越前大野城を礎に戦国時代に形成された城下町を中心に成り立っており、東西六条、南北六条の碁盤目状に区切られた街並みや寺町通り、400年以上続くとされる七間朝市など歴史性豊かな景観が残っており、「北陸の小京都」と呼ばれている。また、市街地の周辺には、九頭竜川・真名川の豊かな水の恩恵を受けた田園地域が広がり、周囲の山岳地とともに良好な景観を形成している。

【本市の課題】

大野市ではこのような地理的条件を活かした農林業が基幹産業となっており、県内市町の中でも、農林業生産額が高い地域である。しかし、近年農林業は、生産価格の低迷とコスト増、従事者の高齢化と減少に伴う後継者不足などに直面し、生産活動が停滞している現状である。

特に林業においては、膨大な森林を抱えながら林業従事者の減少と高齢化は顕著であり、荒廃した森林も多く、国土の保全、水源のかん養、地球温暖化の防止など森林の持つ多面的な機能が発揮されていない地域も見受けられ、今後、低炭素社会を目指していくなかで、地球温暖化防止対策に資する二酸化炭素の吸収、炭素の貯蔵源としての森林が担う役割の低下が危惧されている。

市街地においては、モータリゼーションの発達と大規模小売店舗の郊外進出により、商業活動が衰退するとともに、核家族化の進展による若い世代の郊外への流出により空洞化が進行し、人口・世帯数とも減少が著しく高齢化による

活力の低下が進み、さらに集客力や購買力が縮小するという悪循環に陥っている。また、市街地周辺の住民が郊外的大型店舗や市外の商業施設を利用することで、中心市街地の衰退に拍車をかけている。

【課題への対応】

このような農林業の現状を打破し、安定した農林業を推進するために、環境に調和した農林業の推進や魅力ある「大野の食」の提供などを柱とした「越前おおのブランド」の確立をめざして、多様な担い手の確保と育成のため、快適で活力ある農村形成を図ることが重要である。

また、大野市における豊かな地域資源は、都市に暮らす人々のふるさとへの回帰志向や自然にやすらぎや潤いを求める心に十分応えられるだけの魅力があることから、こうした地域資源を有効にかつ有機的に活用し、本市が誇る自然環境、歴史、文化、伝統など豊富な地域資源や素材を最大限に生かした、都市市民と大野市民とが継続的に交流し、心と心のふれあい活動を提供する「越前おおの型エコ・グリーンツーリズム」を推進し、交流人口の増加による活性化を図るため、農山村の交通基盤整備を行うとともに、交流拠点を有機的につなぐ交通ネットワーク整備が必要である。

国においては、低炭素社会に向け京都議定書による温室効果ガスの6%削減する約束の達成に向け1,300万炭素トン程度を森林による吸収量で確保することとしている。福井県では「木を伐って 木を使う」取り組みを通じて森林資源の循環を促進し、林業の振興と適切な森林整備を推進している。膨大な森林面積を有する本市では、持続的な森林吸収源を確保するための間伐等の森林整備において、低コスト化や効率化をさらに進めるため、木材・間伐材の搬送に欠かすことのできない林道網の整備、森林へアクセスする作業路等の整備が必要である。

さらに、大野市では中心市街地活性化基本計画の認定を受け、地域住民の交流拠点や観光客など来訪者のまちなかへの回遊性を高めて産業の活性化を図る機能を併せ持つ「越前おおの結ステーション」を核として、人が集う、活気に満ちた城下町の再生を目指して、ハードソフト両面の関連事業を展開中である。中心市街地の活性化とともに、農山村での交流やエコ・グリーンツーリズムなどと連携して、市内全体で越前おおのの魅力を体感するための交通体系の構築が必要である。

【地域再生計画の目標】

目標1 農山村における生活基盤である道路の整備や市街地や幹線道路と農山村を連携する道路の整備を行うことにより、エコ・グリーンツーリズム

での交流人口を増やす。
 (指標1 農山村交流主要5施設の入込数について、平成19年度と比較して10%の増を図る)

入込目標数(単位:人)

	H17	H18	H19	H20	H26
農山村交流主要施設合計	121,957	132,133	126,831	133,528	139,514
小池公園	6,100	14,500	8,200	9,300	9,020
中島公園	11,800	10,700	11,000	9,800	12,100
宝慶寺憩いの森	5,000	4,400	4,500	4,100	4,950
スターランドさかだに	6,057	5,333	6,131	6,928	6,744
道の駅九頭竜	93,000	97,200	97,000	103,400	106,700

目標2 市外や郊外から市街地へのアクセスを改善するための道路の整備を行うことにより、中心市街地の賑わいの再生を図る。

(指標2 中心市街地の主要6箇所の歩行者通行量について、平成19年度と比較して25%の増を図る)

歩行者通行量目標数(単位:人)

	H19	H20	H21	H26
主要6箇所合計	2,001	1,845	2,869	2,501
平成大野屋前(国道476号)	793	512	814	991
ねんりんの里前(六間通り)	166	206	181	207
七間本陣前(七間通り)	513	540	766	642
市観光協会前(七間通り)	343	392	844	429
旧Fマート前(五番通り)	54	84	152	67
越前大野駅前(国道476号)	132	111	112	165

目標3 林道の整備や森林地域へのアクセス道路の整備を行うことにより、森林が有する多面的な機能の高度な発揮を図る。

(指標3 森林基幹道奥越線の利用区域における間伐面積について、平成21年度までの5年間合計と比較して、10%の増を図る)

間伐面積(単位:ha)

	H17	H18	H19	H20	H21	合計
間伐面積(実績値)	38	12	54	41	14	159
	(平成21年度分は、H21.12.13現在)					10%増
間伐面積(目標値)	計画期間(H22~26)の5年間合計の増加率を目標とする					175

5 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

今回、「土布子3号線」「大門花山線」「東中北御門稲郷線」「東中菖蒲池線」「伏石金山線」「川上上野土打線」「上据稲郷線」「萩ヶ野不動堂線」「花山下丁中丁線」「下据吉線」「上黒谷下舌中据友兼線」「上野新塚原線」「富島上野井ノ口線」「南新在家森目小線」「稲郷森山線」「鍬掛下黒谷線」「橋爪落合線」を整備することにより、通行車両や歩行者の安全で安心な通行を確保し、エコ・グリーンツーリズムの拠点地、市外や市内から農山村や森林へのアクセス道路として総合的な活用を図る。

また、「下中野中津川線」「駅東線」「中挟美里線」「城北泉鍬掛線」「下中野赤根線」「北部幹線」「三番市庁舎新庄線」を整備することにより、市外や郊外から中心市街地へのアクセス道路を確保することができる。

さらには、膨大な利用区域を抱え五箇地区と和泉地区結ぶ「森林基幹道奥越線」の集中的に整備し開通させることにより、地球温暖化に資する森林整備を推進するとともに新緑、避暑、紅葉な森林に親しむ観光スポットとして新たな来訪者を迎えることができる。

これらを整備することにより、中部縦貫自動車道や国道157号・158号などの幹線道路との有機的なネットワーク化が構築できるとともに、地域内多く存在する農山村交流施設、森林における観光スポット、中心市街地などを周遊する利便性を確保することが可能となり、自然、農林業、食、歴史、伝統、文化など様々な地域の魅力を最大限に発揮し、交流人口の拡大を図ることができる。

5 - 2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を完了している。なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

・市道：道路法に規定する市町村道に認定済み

下中野中津川線 (昭和55年4月5日)

駅東線 (昭和57年3月30日)

土布子3号線 (平成20年9月19日)

大門花山線 (平成12年12月27日)

中挟美里線 (昭和55年4月5日)

東中北御門稲郷線 (昭和63年12月23日)

東中菖蒲池線 (平成12年12月27日)

城北泉鍬掛線 (平成12年12月27日)
下中野赤根線 (平成12年12月27日)
伏石金山線 (昭和55年4月5日)
川上上野土打線 (平成4年6月25日)
上据稻郷線 (昭和55年4月5日)
萩ヶ野不動堂線 (昭和57年3月30日)
花山下丁中丁線 (平成12年12月27日)
下据吉線 (昭和55年4月5日)
上黒谷下舌中据友兼線 (昭和55年4月5日)
上野新塚原線 (平成12年12月27日)
富島上野井ノ口線 (昭和55年4月5日)
南新在家森目小線 (平成12年12月27日)
稻郷森山線 (昭和55年4月5日)
鍬掛下黒谷線 (平成12年12月27日)
橋爪落合線 (昭和57年3月30日)
北部幹線 (平成12年12月27日)
三番市庁舎新庄線 (昭和57年3月30日)

- ・林道：森林法による越前地域森林計画(平成17年12月樹立)に路線を記載

〔事業主体〕

- ・市道 大野市
- ・林道 福井県、大野市

〔施設の種類〕

- ・市道、林道

〔事業区域〕

- ・市道、林道 大野市

〔事業区間〕

- ・市道、林道 平成22年度～平成26年度

〔事業費〕

- ・総事業費 2,214,200千円
(うち交付金1,107,100千円)
- 市道 1,349,000千円
(うち交付金 674,500千円)
- 林道 865,200千円
(うち交付金 432,600千円)

〔事業量〕

- ・市道 17,940m
- ・林道 9,844m

5 - 3 その他の事業

奥越自然の癒し推進計画（平成21年3月27日認定）

大野市東部の六呂師エリアにおいて、県が国庫補助を受けて整備した中山間地域活性化施設「スターランドさかだに」を有効活用し、周辺の施設や地域資源との連携を強化しながら、市が策定した「おおの型食・農業・農村ビジョン」に位置づけられている都市を主眼に置いた農村交流を推進し、地域経済の活性化を目指す。

大野市中心市街地活性化基本計画（平成20年7月9日認定）

城下町ならではの歴史的・文化的資源や自然を最大限に生かして、地域住民との多彩な交流や、個性あるまちなか観光を提供することにより、子どもから高齢者までの幅広い層がまちなか散策を楽しむことができる、賑わいのある中心市街地を目指す。

6 計画期間

平成22年度～平成26年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4に示す地域再生計画の目標については、計画終了時に必要な調査を行い状況を把握し、県及び市のホームページ等で公表するとともに、随時、関係機関や地元住民と協議し、達成状況の評価、改善を行う。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

ブナの森環境保全林整備事業

平成8年度の取得した平家平196haを市民の憩いの場、また、貴重な動植物が生息する自然豊かな森として保護・保全し、後世に残していくための事業。

特用林産物地域定着促進事業

地域における特用林産物の定着を図り、経営の安定と山村地域の活性化を図るため、生産基盤等の整備を行う事業。